

情勢報告（平成27年 6月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

環境制御技術の導入加速化に向けて



5月26日、JA土佐くろしお営農資材センターふれあいにおいて、環境制御機器に関する成果発表会を開催し、生産者43名、JA土佐くろしお、県関係者約20名が参加しました。

農業改良普及課は、JAとともに会の企画運営を行いました。

当日は、主要な推進品目全てについて、県内外の炭酸ガス施用事例・効果を説明したことで多くの質問があり、理解が深まりました。また、産地・流通支援課から、補助事業の内容について説明があり、工事費なども補助対象となることなど詳細な内容まで共有することができました。

今後はJAと協力し、環境制御機器導入後のハウス内環境制御についてアドバイスしていきます。

JA土佐くろしおオクラ部会現地検討会



5月29日、後作ハウスオクラの現地検討会が開催され、生産者5名が参加しました。

農業改良普及課は、ミナミキイロアザミウマとコナジラミ対策として、スワルスキーカブリダニを用いた天敵利用技術について説明を行いました。5月8日にスワルスキーカブリダニを放飼した後、一度も害虫防除を行っていない圃場において、果実に被害がみられない効果を実感してもらいました。

今後も定期的に天敵利用による効果について情報発信していきます。

JA土佐くろしお営農指導員とのミョウガ勉強会の開催



6月22日、JA土佐くろしお営農資材センターふれあいにおいて、平成27園芸年度の現地試験状況の確認や今年度の生育状況等について勉強会を開催し18人が参加しました。

午前中は、日射比例による給液管理や環境測定機器を導入しCO₂施用を行った圃場などを巡回し、午後は、試験の途中経過や今年の日射量、温湿度と収量の関係などについて報告を行い、栽培技術について情報共有を図りました。

農業改良普及課では、3年程前からハウス内の環境を複数のハウスで継続して測定、データ分析してきたことで、高収量農家の管理ポイントが明らかになりつつあります。

今後もハウス内環境の改善に取り組み、産地のレベルアップに繋がります。

「土佐甘とう」現地検討会



5月29日、JA津野山シントウ部会が、雨よけ栽培と露地栽培両方の生産者を対象に現地検討会を行い、JA津野山の生産者34名とJA高知はたから6名が参加しました。

農業改良普及課から、整枝や灌水量管理、尻腐れ果対策等今後の栽培管理について説明しました。参加者から暑い日が続く尻腐れ果の発生が早くから見られるという声があり、灌水量の増加やカルシウム剤の散布などの対策を徹底しました。

今後もJA営農指導員と連携し、生育ステージ毎に現地検討会を開催し栽培技術の周知に努めます。

J A土佐くろしおニラ部会現地検討会



6月12日、須崎市と中土佐町の2ヶ所で現地検討会が開催され、須崎市は10名、中土佐町は7名の生産者が参加しました。

農業改良普及課は、良質安定生産に重要な株養成期間中の栽培管理の徹底を指導しました。また、試作品種の「ハイパーグリーンベルト」や既存立性品種の栽植密度比較による収量調査結果を報告しました。

参加者は増収技術について関心が高く、低温期での更なる増収を図れないかという期待の声がありました。

今後は、適期の栽培管理指導にあわせて新しい品種や栽培技術の情報提供を行い、現地検討会の参加率を更に高めていきます。

J A津野山シシトウ部会現地検討会



6月18日、津野町の雨よけ栽培と露地栽培のほ場2ヶ所で現地検討会が開催され、生産者5名が参加しました。

農業改良普及課は、今後の整枝や追肥、灌水、病虫害防除など栽培管理の徹底を指導しました。

参加者は、樹勢に応じた整枝や追肥、灌水など適期の管理方法を確認しました。

今後も、現地検討会や目慣らし会を定期的実施し、適期の栽培管理指導を徹底し安定生産に繋がります。

「おおのみ米」の付加価値向上



5月31日、中土佐町の「おおのみエコロジーファーマーズ」会員のほ場で田植え体験が行なわれ、高知県立大学健康栄養学科の学生22名が参加しました。

県立大生は、3年連続で学内の提案型プロジェクトに応募し、今年も交流会を実施できることになりました。

農業改良普及課は、田植え指導及び運営を支援しました。

今年も、農家が田植機を動かす姿に「かっこいい！」との声が上がっていました。また、昼食でおおのみ米を食べながら農家と交流を深めることで、おおのみ米のファンを更に増やすことが出来ました。

今後も、8月の生育調査、10月の収穫体験を支援します。